

セッションⅡ－３、Ⅱ－４

小林 俊 樹

当セッションでは、下記の発表がなされた。

Ⅱ－３ 現地調査手法

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
31	長谷川秀人	㈱地研	関 東	熱赤外線リモートセンシングによる 法面空洞調査手法の基礎実験
32	永島 洋政	日本地研㈱	九 州	河川構造物の空洞化対策に関する考 察
33	岩月 栄治	川崎地質㈱	中 部	コンクリート構造物の劣化とその原 因について～主にアルカリ骨材反応 について～
34	玉川 雅仁	㈱地研	関 東	道路舗装構成と路床CBRの簡易調 査法
35	吉富 正忠	サンコーコンサルタント㈱	関 東	可燃性ガス胚胎層の掘削結果報告

Ⅱ－４ その他の現地調査手法及び情報化

論文 No.	口頭発表者	所 属 所	地区名	題 目
36	川崎 一	中央開発㈱	関 東	実地震による液状化噴砂孔のトレン チ調査事例
37	岡部 吉一	㈱東京ソイルリサーチ	関 東	模型実験におけるモデル地盤作製の 実例
38	増見 文昭	基礎地盤コンサルタンツ㈱	関 東	地盤調査データ処理システム
39	高橋 正純	三扇コンサルタント㈱	関 東	多層地盤に挿入された杭の軸直角方 向許容支持力の計算法

【発表論文の傾向】

発表内容は多岐にわたっており、この中から論文傾向をまとめることは難しい。あえて傾向を記すと、遠隔的・非土方的な調査手法を紹介するもの（論文No.31、No.32、No.34）、OA化、電算処理手法を紹介するもの（論文No.38、No.39）等、地質調査業のイメージアップ（3Kの追放）、効率化を各社とも真剣に考えている切迫した状態が伺える。

【質疑、討論の模様】

発表は各自10分、討議は発表が終了した後、座長がまとめを行い、その後に質疑に入る形式がとられた。

質問は技術的なものは相対的に少なかったが、なるべく手を汚さない調査・解析手法を開発、設置する際の経費、販売する場合の金額など現実的、経済的なものが多い傾向にあった。

【感想】

地質調査業における最大の課題は、「クリーンなイメージ」を構築し、国土の開発に寄与する人材を確保することにあると思われる。今回の発表は、こうした課題を反映するものが多く、業界全体の危機感を感じ取る良い機会であった。

なお、全地連に所属している会員の多くは、応用地質学会、土木学会、土質工学会などの学会に属しており、論文形式の技術発表はこれらに譲っても良いものとする。

若手技術者に活気があることは、これを継いでいく人材に大きな魅力である。全地連での技術発表会は、「若手技術者の交流と人前で意見を述べる度胸、会話力を養う場を提供する」方向で発展願えればありがたいと思う次第である。

(株式会社復建技術コンサルタント)

